

ニュースレター # 4、# 5 に引き続き、「水資源と生活に関するアンケート」の結果概要をお伝えいたします。



執筆担当：大野 智彦 先生
 (金沢大学人間社会研究域)
 D 班/ 対話・協働

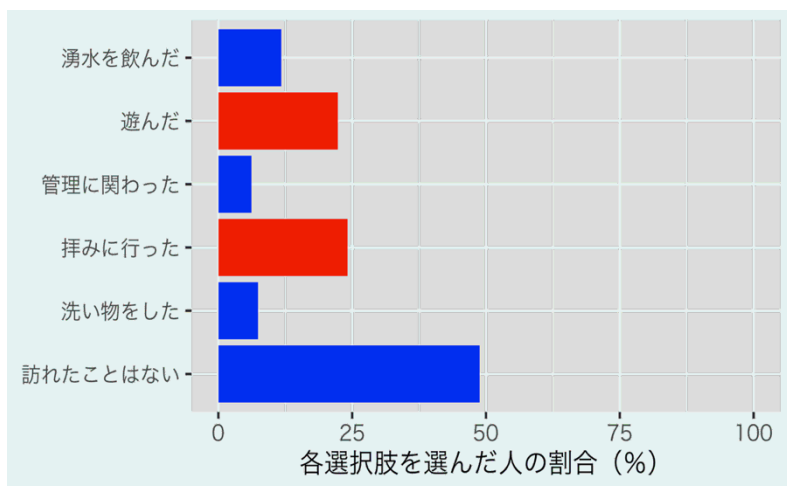
湧水（カー）との関わり

八重瀬町民の方々の地下水に関するご経験やお考えをお聞きするため、2021年2月に「水資源と生活に関するアンケート」を実施しました。合計2582名の方からご回答をいただきました。ご協力に御礼申し上げます。

今回の調査では、八重瀬町民の方のお考えの全体像をできるだけ正確に推測するために、水や環境に関心をお持ちの方だけに協力をお願いするのではなく、住民基本台帳からくじ引きの要領で無作為に選ばれた方々に調査票を送らせていただきました。そのため、ご回答が難しい状況の方に調査票が届いたり、同一世帯に複数の調査票が届いたり、戸惑われた方も多かったのではないかと思います。こうした趣旨でのお願いをさせていただいたこと、ご理解いただければ幸いです。

皆様からいただいた回答はコンピューター上での分析ができるように入力作業を終えて、現在は集計作業を行っているところです。今回は、その中からいくつかの項目についての集計結果を速報としてご紹介します。今後は、複数の項目間にどのような関係があるのか、様々な角度から分析を深めていく予定です。

■八重瀬のカー（湧水）との関わり

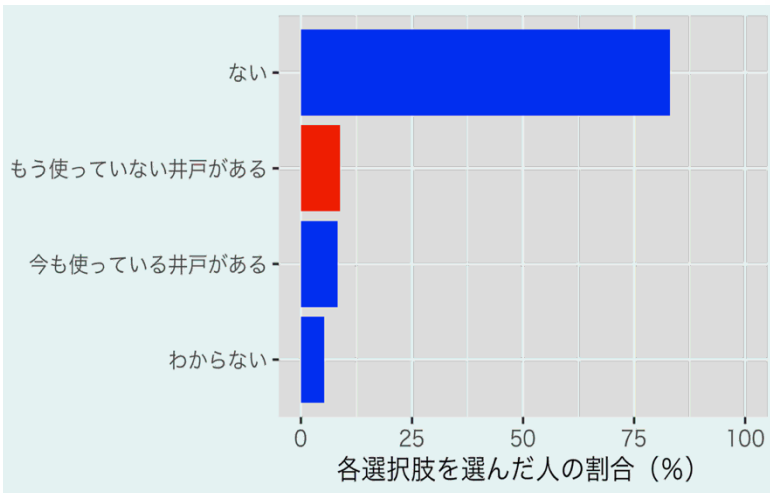


古琉球の時代から水利の便が悪い与座集落・仲座集落の村井（ムラガー）として利用されてきた世持井（ユムチガー）。琉球の史書『球陽』にも1827年の頃に「世持井」と記されている。

(参考：八重瀬町教育委員会解説)

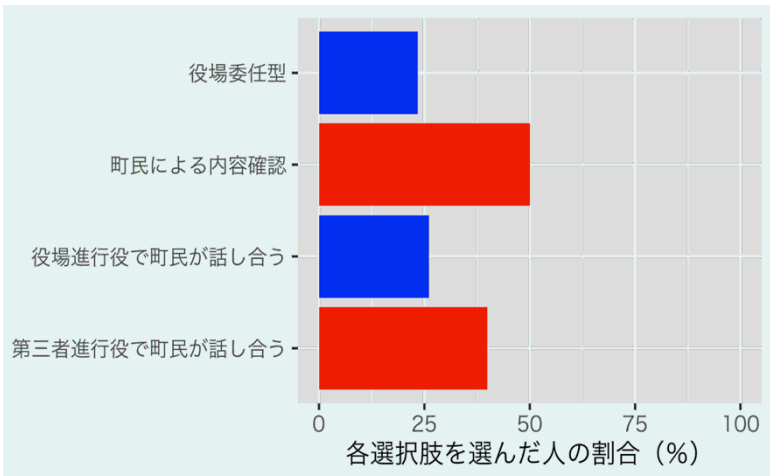
地下水と聞くと、日常生活との繋がりを想像し難い方もいらっしゃるかもしれませんが、しかし、八重瀬町には地下水が湧き出ているカーと呼ばれる場所が複数あります。これらのカーでの経験についてお聞きしたところ、訪れたことがない方が約半数いらっしゃる一方で、拝みに行ったり、遊んだりした経験がある方がそれぞれ約22%、24%と一定の数いらっしゃるということがわかりました。信仰の場であったり、遊びの場であったり、八重瀬の方々にとってカーは、単なる水資源というよりも、思い出深い場所であることがうかがえます。

■井戸の有無や使用状況 注：この設問は、回答形式が郵送と Web で異なっており、参考値としてお知らせしています。



地下水を利用する身近な方法として、井戸があります。現在の住宅事情を考えると、やはり多数の方が井戸はないと回答されましたが、一方で今も使っている井戸があると回答された方も約 8%いらっしゃいました。そして、同じく約 8%の方が、もう使っていない井戸があると回答されています。災害時の水源などとして井戸の意義は見直されており、こうした現在では使われていない井戸の活用は、これからの八重瀬の水と暮らしのあり方を考えていく上で1つのポイントになるかもしれません。

地 下水を守っていく上での町民の関わり方



〈プロジェクト事務局より〉

八重瀬町「水資源の活用のあり方に関する地域円卓会議」を企画しています。

八重瀬町が歩んできた歴史の中で、水資源と暮らしにまつわる事実やエピソードを確認しながら、現状の課題を共有し、住民とともに今後の資源活用の方向性を見出すことを目的としています。

- ・行政
- ・地域
- ・学識
- ・企業
- etc...



※3 月開催を予定していましたが、コロナウィルスの感染拡大状況を鑑み開催方法、日程等検討中です。

八重瀬の水をどのように生かし、守っていくのが良いのでしょうか。水は様々な人の暮らしに関わるものだけに、なかなか難しい課題ではあります。そうした中で、例えば地下水を将来にわたって良い状態で管理していくための地下水管理計画を作るとすれば、どのような町民の関わり方が望ましいのか、お考えをお聞きしました。結果は、八重瀬町役場が案を作って町民がその内容を確認した上で最終決定するという選択肢を約 5 割の方が選ばれましたが、独立した第三者が進行役となって町民同士の話し合いで決めるという選択肢も約 4 割の方に支持されました。残りの 2 つの選択肢も一定程度の支持を集めています。どのような方が、どのような選択肢を希望されているのか、今後より詳しい分析を行っていきたいと思います。



【資料紹介】『具志頭村史』第 5 巻村落編二 字史 2005 年発行

旧具志頭村における 10 の字ごとに、村落と水の利用がまとめられています。水道が普及するまでは、字によって村落共有の村ガ（生活用水利施設）、村グムイ（農耕用溜池）を設置し、飲料水や農耕用水、防災用水を確保することもあれば、各屋敷内に井戸（チンガー）を掘り需要を満たすこともありました。地形上、浅く掘っても豊富に地下水が湧き出る地域では各自で井戸を設置することができましたが、琉球石灰岩の厚い岩盤で覆われた地域では、屋敷内にガジュマルやイスの木を植えて雨水を取水したり、他の集落の井戸を利用するなどしていたそうです。

プロジェクトに関するお問い合わせ、ご意見・ご感想は、下記までお寄せください。

【発行】八重瀬町・琉球大学 JST SOLVE for SDGs プロジェクト事務局
〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原 1
琉球大学亜熱帯島嶼科学拠点研究棟 担当：安元
Tel: 098-895-9131 (平日 13:00-16:00/ 会議やイベント等で離席することもあります。ご了承ください。)
Email: solveforsdgs@gmail.com
ホームページ：http://mizunowa.skr.u-ryukyu.ac.jp/